

長野県白馬高校の事例

1 白馬高校の概要

- ・ 白馬、小谷地区に立地する高校で、平成27年度まで普通科1学年2学級、定員80名の学校
- ・ 定員充足もままならず、再編統合の対象となって当然と思われていた。
- ・ 平成22年度に白馬村長や小谷村長等による「白馬高校魅力づくり検討委員会」が設置され、平成25年度に観光学科の設置等について、県教育委員会に要望
- ・ 平成28年度から、普通科と国際観光科の2学級で再スタート（国際観光科は全国募集）

○ 白馬高校 入学者数と在籍者数の推移 (単位：名)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入学者数	49	54	50	66	76	74
在籍者数	163	155	147	170	192	210

2 長野県が白馬高校を存続させた理由

- ① 白馬、小谷地区は世界的な山岳観光地で、スキー場には外国人観光客が多数訪れていることから、国際観光科の設置による特色ある人材育成が、世界水準の山岳高原観光地づくりに不可欠と判断したため

○ 白馬村 外国人観光延宿泊者数 (単位：人、%)

年度	25年	26年	27年
白馬村	60, 556	77, 724	100, 310
長野県	360, 938	465, 240	708, 282
白馬村構成比	16. 8	16. 7	14. 2

- ② 全国募集により、他県からの人材流入も期待できるため

○ 国際観光科への県外からの入学状況

区分	県外出身生徒数	出身都道府県
28年度	13名／38名	東京、神奈川、千葉、静岡、群馬、新潟、愛知、滋賀、鳥取、福岡
29年度	18名／34名	北海道、埼玉、東京、新潟、愛知、大阪、広島、長崎、鹿児島、ベトナム(日本人)

③ 白馬村と小谷村から、白馬高校への積極的な支援策が提案されたため

○H28年度

【予算額】

白馬村68百万円 小谷村15百万円 計83百万円

【支援内容】

- ・ 語学学習、観光教育への支援
- ・ 寮の設置運営費用の負担
- ・ 進学希望者を対象とした公営学習塾の設置運営
- ・ 生徒への就労インターンシップの機会提供
- ・ スキー部への支援 など

○H29年度

【予算額】

白馬村50百万円 小谷村19百万円 計79百万円

【支援内容】

28年度と同様



白馬村のスキー場に訪れる外国人観光客



外国人観光客にインタビューする生徒



新たに設置された寮



キャリア教育充実のための講演会の開催
「星野リゾート代表 星野佳路」氏